

金 剛 石

八代市立第六中学校

学校だより

令和7年9月29日

文責：校長



校訓：「金剛石の光を発揮し、まわりを照らせ」

学校教育目標：「自分を磨き、仲間と繋がり、未来を考える生徒の育成 ～共に成長していく学校～」

良樹細根・大樹深根 ～日々の思考と習慣でしっかりと根を張っていこう～



日中はまだまだ暑い日が続いていますが、朝夕は秋らしさを感じる時期になりました。体育大会では一人一人が成長する姿を見せてくれましたが、10月、11月も学習面や生活面で充実した日々を送って欲しいと思います。学校教育目標に掲げているように、「自分を磨き、仲間と繋がり、未来を考える生徒」をめざして、六中生がさらに成長してくれることを願っています。

さて、「良樹細根（りょうじゅさいこん）」という言葉があります。「細かく根を張っている木は枝葉もよく茂る木になる」という意味です。また、「大樹深根（たいじゅしんこん）」という言葉もあります。「根を深くまで張っている木は、根の深さの分だけ大きな木になる」という意味だそうです。しっかりと根を張っていくと枝葉が広がり、大きく成長していくということです。人はとかく目の前の結果を求めがちですが、日々の生活の中で自分自身の土台をつくっていくことが何より重要だと考えます。

では、「根を張る」「土台をつくる」とはどういうことでしょうか。それは日々の「思考」と「習慣」だと思います。哲学者の森信三氏の教えに「時を守り、場を清め、礼を正す」というものがあります。

「時を守る」は、分かりやすく言い換えると「遅刻をしない、期日を守る」ということになります。準備を整え、きたるべき時に備えて心を静めて開始を待つということです。朝は時間と気持ちにゆとりをもって登校し、始業に備えることです。また、提出物などは期限よりも早めに提出するということです。このことを実践するには自分本位の考えではなく相手意識が必要です。時を守ることは、相手を尊重することにつながります。

「場を清める」は、「整理整頓をする、一生懸命に掃除をする」と言い換えてもいいでしょう。整理整頓すると作業効率もよくなりますし、何より周囲の人たちも気持ちよくなります。また、掃除に熱心に取り組むと「気づく心」「謙虚な心」「感動する心」「感謝の心」が芽生えると言われます。その場所をきれいにしていくことは様々なことを考えることにもつながります。単純な作業のようですが、自分の心を磨くことになります。

「礼を正す」を具体的な行動で言い換えると「挨拶をする、返事をする」ということでしょうか。挨拶は「心を開いて、相手に迫る」ということで、人間関係を良好にしていくことにつながります。六中生徒会の生活・安全委員会で提唱している「挨拶ざっぶ～んプロジェクト」を実践していくことこそ礼を正すことになります。また、呼ばれたら「はい」と返事をし、お世話になったら「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えることも大切だと思います。

思考と習慣が人を育てていきます。「時を守り、場を清め、礼を正す」という思考と習慣を一日一日積み重ねていくことが人としての根を張っていくこと、土台をつくっていくことになります。

「時を守れているか?」「場を清めているか?」「礼を正しているか?」

自分はできているだろうか? 日々、自分自身を見つめながら過ごしていった欲しいと思います。毎日の思考と習慣を大切にして、その日やること一つ一つに心を込めて取り組んでいきましょう。そして、自分らしい良樹・大樹を育てていってください。最終的には「誰かに育ててもらおう」から「自ら育っていく」ということが求められます。そのための根をしっかりと張っていきましょう。

